

第二部

境界 1

あらゆる予測の外で。

人間にはつきまとう奇妙な傲慢さがある。

私たちは人生を予測できると信じている。

何年もかけて計画を立てる。

五年目標。

十年戦略。

決算。

予測値。

予定表。

地図。

やがて現実がやって来る。

そして現実は、私たちの計画書など読んだことがない。

長いあいだ、経験は予測可能性を生むと信じていた。

学べば学ぶほど。

知れば知るほど。

旅すれば旅するほど。

何が起こるかを、それだけ見通せるはずだと。

論理的に思えた。

妥当に思えた。

科学的にさえ思えた。

やがて人生は、面白がってその逆を証明してみせた。

最も重要な転機は、いつも約束もなしにやって来た。

予約もなく。

予告もなく。

警告もなく。

ただ、やって来た。

ある時は好機の姿で。

ある時は喪失の姿で。

ある時は出会いの姿で。

ある時は病の姿で。

その違いが分かるのは、後になってからだ。

渦中にいるときは、どれも同じものに見える。

中断。

突然の変化。

回り道。

それまで歩んできた道のりを眺めるうち、奇妙な図柄に気づき始めていた。

すべてを理解したと確信するたびに、問いそのものを変えてしまう何かが起こった。

そして問いが変われば、答えもまた価値を失う。

人生のある特別な時期を覚えている。

経験があった。

責任。

実績。

知識。

すべてが、かなり明確な軌道を示しているように見えた。

未来はある方向に進むはずだと確信していた。

うぬぼれていたからではない。

データがそう告げているように見えたからだ。

やがて人生は、最も得意とすることをした。

勝負の台を変えることだ。

ルールではない。

台そのものを。

これは、ほとんど誰も語らない部分だ。

台が変わっても、積み上げた経験は消えない。

だが足りなくなる。

もう一度学ばなければならない。

もう一度観察する。

もう一度耳を傾ける。

屈辱的だ。

と同時に、驚くべきことでもある。

私たちが思っているよりずっと長く学生であり続けることを、思い出させてくれるからだ。

年月とともに、私は予測不可能性を尊ぶようになった。

快適だからではない。

快適だったためしはない。

正直だったからだ。

予測不可能性は、人にありのままの姿をさらけ出させる。

すべてが計画どおりに進むとき、誰でも有能に見える。

計画が消えたとき、人格が現れる。

私が最も敬服する人々は、未来を正しく予測した人々ではない。

予測していなかった未来を渡りきることのできた人々だ。

これは別の能力だ。

はるかに稀な。

はるかに人間的な。

私たちは、自信ありげに見える者に報いる世界に生きている。

確信をもって語る者に。

成果を約束する者に。

予測を差し出す者に。

私は時とともに、不確実さと共に生きられる人々をより信頼するようになった。

不確実さはシステムの誤りではないからだ。

それがシステムなのだ。

宇宙は誰とも、予測可能性の契約書に署名したことなどない。

それでも私たちは驚き続ける。

抗議し続ける。

不測の事態を例外と見なし続ける。

おそらく、その逆をすべきなのだ。

それを常態と見なすことを。

この考えをついに受け入れたとき、何かが変わる。

絶対的な支配を迫りかけるのをやめる。

保証を求めるのをやめる。

未来が私有財産であるかのように生きるのをやめる。

そして探検家のように生き始める。

注意深く。

敬意をもって。

好奇心をもって。

人生が言葉を使わずに教えてくれた一文を覚えている。

最良のものと最悪のものは、決して紹介状を送ってこない。

やって来る。

入ってくる。

風景を変える。

そして結果を残して去っていく。

それをどうするかは、私たち次第だ。

振り返ってみると、私が根幹と考える経験の多くは、事前の合理的な審査など決して通らなかっただろうと気づく。

あまりに危険だった。

あまりにありそうもなかった。

あまりに複雑だった。

想像していたものとあまりにかけ離れていた。

それでも、今の私という人間を築いたのは、まさにそれらの経験なのだ。

だから今日、私はもう予測可能性を美德とは考えない。

便利なものと考えている。

本当の美德は別にある。

開かれたままでいること。

注意深くあり続けること。

学ぶ力を保ち続けること。

人生が台を変えるときも。

運命が問いを変えるときも。

未来がノックもせずには部屋へ入ってくるときも。

大陸を、危機を、人間関係を、成功と失敗を渡り歩いて学んだひとつの真実があるからだ。

私の人生で最も重要なことは、いつもあらゆる予測の外で起こった。

そしてまさにそこから、物語のいちばん良い部分が始まっていたのだ。